

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 26-1-034
補助事業名 平成26年度 親と子のふれあい交流活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人日本科学技術振興財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

高度経済成長期に日本を支えてきた「ものづくり」産業には、近年グローバルな競争の中で苦戦を強いられているものも多い。また、これら産業に重要な役割を担う中小の事業者は、慢性的な科学技術系人材の不足にも直面しており、この状況の一般への周知と国内産業への興味関心を高めることは急務であると考えます。あわせて、家庭・社会における世代間コミュニケーションの活性化、さらに情報や価値観を共有・継続することは良好な社会環境を築くためにも重要であると考えられるがその機会は多くはないと考えます。

本事業では、親子など幅広い世代間コミュニケーションをもとに「一般の人々が大切だと捉えている工業製品」に関する情報を収集し、科学技術やモノづくりへの興味関心を高めるとともに、科学技術系人材の育成、子どもの創造性醸成や文化・遊び体験活動等の機会の提供を目指します。生活水準の向上に貢献してきた科学技術を、単に歴史的に振り返るのではなく、未来に向けて、どのような役割を担うべきかまでも展望し、ともに考える機会を提供します。

具体的には、身近な工業製品「自動車・モーターサイクル・自転車」及び「家電」に対して、「記憶に残るモノ」を親・子・孫など幅広い世代間コミュニケーションのもとに参加できるWebアンケートを実施し、アンケート結果を公開するとともに、Webアンケート結果を活かして展示や講演、ワークショップを開催し、幅広い世代間の交流を深めるリアルな場（機会）を展開します。それにより広く一般国民の「モノづくり」や「科学技術」への興味関心を喚起し、幅広い世代間コミュニケーションの活性化や将来の子どもたちへの文化・伝統技術等の継承を図ることを目的とします。

(2) 実施内容

1960（昭和35）年に設立された日本科学技術振興財団は、1964（昭和39）年に科学技術館を開館し、以来50年にわたり主として青少年および親子連れを対象に体験型展示を用いて産業技術、科学技術の普及・啓発に努めてきました。この間にわが国の工業製品は技術的な進歩と信頼性の向上を手に入れ、家庭への普及は生活様式を一変させ、拡大した輸出により世界中に認められるまでになりました。これら製品を親子のコミュニケーションのもとに振り返り、「ニッポンの産業技術50年」の果たした役割を

再確認するとともに、未来へ向けて科学や技術が果たすべき役割について、ともに考える機会をつくりました。

①「家電&のりものWebアンケート投票」の実施

<https://industry50.jsf.or.jp/>

2014年8月20日～11月30日までの103日間、身近な工業製品「家電」および「自動車・モーターサイクル・自転車」について、親子が世代を超えて参加できる「家電&のりものWebアンケート」を実施しました。アンケートは、家電部門とのりもの部門の2つに分けました。家電アンケートの設問は次の通りです。

- ・あなたにとって欠かせない家電
- ・これまでにスゴイと思った家電
- ・特にこだわって選びたい家電
- ・家にあるいちばん古い家電はいつ頃の何に
- ・古い家電の種類と古い家電への思い

また、のりものアンケートの設問は次の通りです。

- ・好きなタイプのクルマ・モーターサイクル・自転車は
- ・選ぶとしたら大切にしたいポイント
- ・今後さらに進んでほしい自動車に関連する技術は
- ・「クルマ」「モーターサイクル」「自転車」への思い

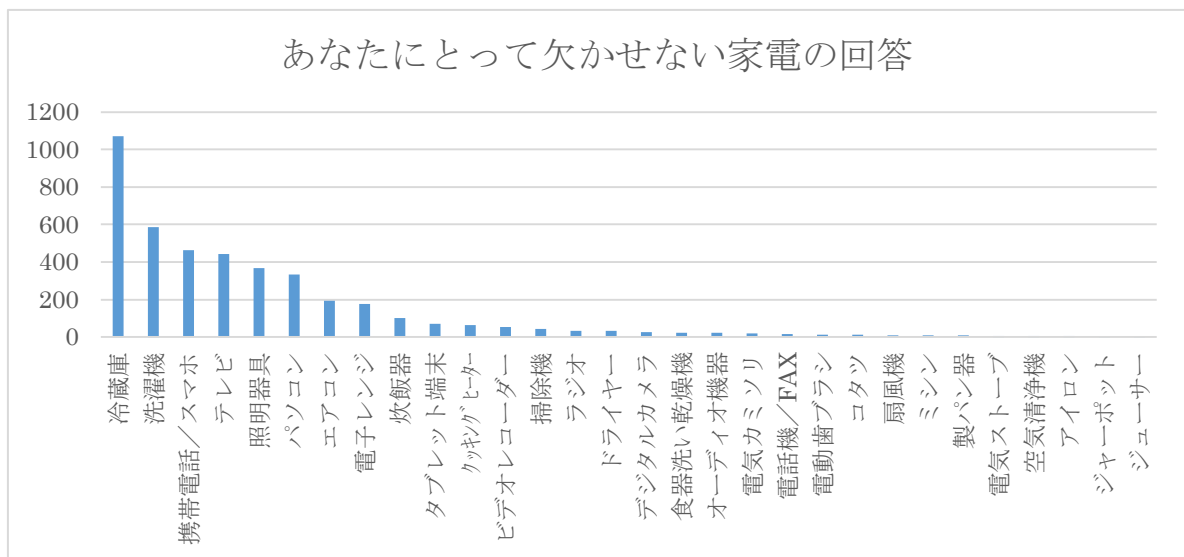
家電&のりものWebアンケートへは、幅広い世代から3,402件の回答が寄せられました。男女比は、男性45%、女性55%と女性から多く回答がありました。参加は、東京51%、埼玉14%、神奈川11%、千葉10%となり、首都圏からの回答が多くありました。年齢は、40代40%、30代27%、50代13%、3～12歳10%となり、親世代を中心にその子供たち世代からの回答が多く寄せられました。

家電アンケートへの回答数は約2,100件でした。「欠かせない家電」のベスト4は「冷蔵庫」、「洗濯機」、「携帯電話／スマホ」、「テレビ」となり、電化製品の“三種の神器（冷蔵庫、洗濯機、テレビ）”は健在のようです。「これまでにスゴイと思った家電」のベストは、「携帯電話／スマホ」、「パソコン」、「タブレット端末」でしたが、「電子レンジ」や「ホームベーカリー」が続きました。女性の回答を多くいただいたことも、これらが上位に選ばれた結果につながったかと考えられます。こだわって選びたい家電のベスト3は、「携帯電話／スマホ」、「パソコン」、「デジタルカメラ」という結果でした。

のりものアンケートへの回答件数は約1,300件でした。「クルマやモーターサイクル、自転車を選ぶときに大切にしたいポイント」を聞いたところ、1番目は安

全性、2番目は快適性、3番目は価格という結果でした。今後さらに進んでほしい自動車に関連する安全技術のベスト3は、「衝突被害軽減ブレーキ」、「周囲視界補助モニター」、「歩行者保護技術」という結果でした。

「家電&のりものWebアンケート」を通して、親子が参加することで、幅広い世代間コミュニケーションが図られ、科学技術に対する興味関心を深めるきっかけをつくりました。



②ニッポンの産業技術 50年「しくみとくふうと、まなぶ展」の開催

<https://industry50.jsf.or.jp/>

2015年3月20日～4月7日までの19日間、「家電&のりものWebアンケート」の結果を反映し、身近な工業製品である家電やクルマを通して、暮らしを変えるときにモノづくりがたどった進化のみちを、単に振り返るのではなく、①つくれる②ひろまる③つなげる④くみこまれる⑤まとまる⑥おいもとめるの6つの視点でこれからの未来を考える試みの展示を行いました。

展示は、国産初の電気洗濯機「東芝SolarA」、電気冷蔵庫「SS-1200」、50年前に日本が世界で初めてつくったオールドランジスタ・ダイオード電子式卓上計算機「シャープ・コンペットCS-10A」、「軽自動車」の先駆けとなった「スバル360」などのほか、カーボンファイバー繊維強化プラスチック（CFRP）のボディの次世代型EVコンセプトカー「東レ“TEEWAVE”AR1」を期間限定で展示しました。また、来場者がものづくりについて考え、自分でアイデアを書きのこせ、展示できるようにしました。

そのほか、「手回し計算機の体験ワークショップ」、「さんかくテーブルの手法を

用いたワークショップ」、「家電の解体ショー」などを実施しました。会期中の入館者数は約40,000人でした。

本物を直にみせることで日本の産業やモノづくりへの興味を喚起し、来場する親子連れ、家族連れに対して、幅広い世代間コミュニケーションの場とし、日本の産業およびモノづくり振興を図りました。

開催概要は、次の通りです。

- 名 称 : 科学技術館開館50周年記念 2015年春休み特別展
「ニッポンの産業技術50年 ～しくみとくふうと、まなぶ展」
- 開催日時 : 2015年3月20日（金）から2015年4月7日（火）まで
会期中毎日 午前9時30分～午後4時50分
- 主 催 : 公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館
- 会 場 : 科学技術館 2階 イベントホール
- 入場料 : 無料（※科学技術館入館料のみ）
- 協 力 : N T T 技術史料館、神奈川工科大学、シャープ株式会社、
東京理科大学近代科学資料館、東芝未来科学館、東レ株式会社、
東レ・カーボンマジック株式会社、富士重工業株式会社
(五十音順)
- 後 援 : 読売新聞社
- 補 助 : 公益財団法人JKA



普及しだしたころのテレビ・洗濯機の展示



家電解体ショー「洗濯機の解体」

2 予想される事業実施効果

「家電&のりものWebアンケート」を通して、親子が参加することで、幅広い世代間

コミュニケーションが図られ、科学技術に対する興味関心を深めるきっかけをつくりました。このWebアンケートの結果を反映し、「しくみとくふうと、まなぶ展」を開催し、古い家電とクルマの展示や未来の技術を考えるワークショップ等の実体験に繋げることを図りました。大人（祖父、祖母、父、母の年代の方々）にとっては懐かしむと同時に、子どもに昔の生活や技術を、実物を通して伝える機会となるとともに、現代の家電やクルマと比べ、この数十年間の技術の進歩を思い返し、これからの技術のあり方を考える機会となりました。

この展示やWebアンケートの結果は、平成27年に実施する夏休み特別展「ニッポンの現代産業50年」展へつなげ、展示内容を深め、規模を拡大し、実物展示やワークショップ等を行い、幅広い世代間コミュニケーションの場として、日本の産業およびモノづくりの振興につなげていきます。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

JSF Today (広報誌) http://www2.jsf.or.jp/00_info/public.html

●活動報告

春の特別展「しくみとくふうと、まなぶ展」を開催

「ニッポンの産業技術50年」事業～「家電&のりものWebアンケート」結果生かし

「ニッポンの産業技術50年」をテーマとする科学技術館開館50周年事業（JKA補助事業）の第1弾「家電&のりものWebアンケート」には約3,400件の回答が寄せられました。このWebアンケートの成果を生かし、第2弾となる春休み特別展「ニッポンの産業技術50年 しくみとくふうと、まなぶ展」を2015年3月20日（金）から4月7日（火）までの19日間、2階イベントホールを会場に開催しました。この特別展は盛況をもって終了し、夏休みに予定している第3弾の大型特別展に向けて弾みとなりました。



春の特別展の会場。展示には展示の「家電&のりものWebアンケート」の結果生かし



特別展の特別展示として展示されたEV「EVTEEWAVE」も展示。写真は展示のコンセプト「EVTEEWAVE」

●国産初の家電から次世代コンセプトカーまで

科学技術館では、50年を振り返り50年の科学・技術・産業と私たちの暮らしを考える機会として特別展「ニッポンの産業技術50年～今日の技術が未来をつくる」を2015年夏に開催する計画です。今回のイベントとして春休み期間中、「しくみとくふうと、まなぶ展」を開催しました。家電やクルマを通して、私たちの生活様式を直し、暮らしを豊かにしてきたモノがたどった進化の軌跡を、来館者と一緒に考える試みです。

この特別展では、6つのコーナーを設けました。「①つくれる～家電はここから?」では、日本初あるいは国産初の1990年製の電気冷蔵庫、電気洗濯機などを展示。「②ひらくる～今でもやっぱり3種の神器?」では、1950～60年代の洗濯機、テレビ等を展示。「③つなげる～もしもしからネットワークへ」では、携帯電話1号機、ポケットベル、カラーテレビ、真空管ラジオ等を展示。「④くみこめる～学びとくふう、ここにはじまる?」では、国産初のパーソナルコンピュータ電卓、カーナビ電卓などを展示。「⑤まよまよる～次で何がある?」では、次で何があるかめられた機能を実物で展示。「⑥おもしろいもの～かみく、つよく」では、スバル300と期間限定で次世代電気自動車コンセプトカー「東レTEEWAVE」、カーボン部品を展示しました。

大人の方々にとっては、懐かしむと同時に、子供に昔の生活を伝える機会となりました。さらに、それぞれのコーナーでは、来館者がのびのびと考える、自分で「つくってみたいもの」や「まよまよるおもしろいもの」などのアイデアを考へてもらうようにしました。このアイデアを壁一面に展示して、具現できるものにはテーマで投票する試みも加えました。たくさんのお票をいただいたアイデアは夏の特別展で紹介する予定です。

第3弾となる夏休み特別展「ニッポンの産業技術50年～今日の技術が未来をつくる」展は、近未来の展示も加わり、春休み特別展より内容を深め、規模を拡大して開催予定です。ぜひ、ご家族そらってのご来館をお待ちしています。

<経理企画 経理課 大野力>



「つくれる～家電はここから?」コーナー。国産初のパーソナルコンピュータ「EVTEEWAVE」も展示。



特別展「ニッポンの産業技術50年」を開催。国産初のパーソナルコンピュータ「EVTEEWAVE」も展示。写真は展示のコンセプト「EVTEEWAVE」

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人日本科学技術振興財団
(コウエキザイダンホウジンニホンカガクギジュツシンコウザイダン)
住 所： 〒102-0091
東京都千代田区北の丸公園2番1号
代 表 者： 代表理事 理事長 榊原定征 (サカキバラ サダユキ)
担 当 部 署： 経営企画・総務室 (ケイエキカク・ソウムシツ)
担 当 者 名： 主査 大野 力 (オオノ リキ)
電 話 番 号： 03-3212-8470
F A X： 03-3212-7790
E - m a i l： ono@jsf.or.jp
U R L： http://www2.jsf.or.jp/00_info/hojo.html

以上